

平成 27 年度第 3 回北九州市立図書館協議会 会議録

1 会議名

平成 27 年度第 3 回北九州市立図書館協議会

2 議題

- (1) これからの図書館サービスのあり方に関するアンケート報告書
- (2) 「これからの図書館サービスのあり方について」具体的な施策の検討
- (3) その他
 - (北九州市公共施設マネジメント実行計画（成案）について)
 - (八幡図書館について)
 - (新・北九州市子ども読書プランについて)
 - (北九州市生涯学習推進計画《“学びの環” 推進プラン》について)
 - (北九州市立図書館の評価（平成 26 年度）について)

3 開催日時

平成 28 年 2 月 26 日（金） 14 時 00 分～15 時 40 分

4 開催場所

北九州市立中央図書館 視聴覚センター 第 2 会議室

5 出席者氏名

- (1) 委員（会長他 9 名、欠席委員 6 名）

北九州市立大学図書館長	松尾 太加志
北九州市学校図書館協議会副会長	瀬藤 早苗
北九州市学校図書館協議会会長	江口 恵子
九州国際大学図書館長	島浦 一博
福岡県公立高等学校長協会北九州地区会長	固谷 寛
(一社)北九州市私立幼稚園連盟副会長	中田 俊澄
北九州市 P T A 協議会副会長	赤峰 稔朗
北九州市社会教育委員	宮本 和代
北九州市婦人団体協議会理事	阿部 芳美
北九州青年会議所委員	末松 美緒

(2) 事務局（中央図書館長他7名）

中央図書館館長	石神 勉
中央図書館庶務課長	酒井 国広
中央図書館奉仕課長	埤谷 章子
中央図書館庶務課庶務係長	岩松 栄子
中央図書館庶務課奉仕係長	東 豊
中央図書館視聴覚センター館長	三栗谷 進
教育委員会生涯学習課長	梅下 勝己
教育委員会生涯学習課図書館建設担当係長	古郷 浩一

6 傍聴者

なし

7 会議次第

議事（報告、質疑応答）

8 会議経過（発言内容要旨）

(1) その他「新・北九州市子ども読書プランについて」

資料「新・北九州市子ども読書プランについて」に基づき、事務局より説明。

(会長)

プランが最終的な成案としてできたというご報告ですが、ご意見ご質問はありませんか。

(委員)

具体的な取り組みが36事業ありますけど、これらを具現化していくために、例えばどういう形でどこにどう働きかけていこうとか、そういった予定は今の段階であるのでしょうか。

(事務局)

この計画をつくるにあたっては、子ども家庭局や市民文化スポーツ局など、事務局の関連セクションが全部入っております。具体的に動いてもらうセクションなので、それらの合意を得ながら作った計画ですので、基本的には自動的に動くようにはなっています。ただ、新たにしかけないといけない部分もあります。特に、最後に説明した「子ども読書会議」は新規の取り組みですので、教育委員会から関係のセクションと協議を持ちながらすすめていきます。

(委員)

縦割りの中で大変だとは思いますが、いろいろなところと協働していくのですか。

(事務局)

前回までの計画は、教育委員会の内部が事務局だったのですが、今回、子ども家庭局から市民文化スポーツ局など、様々な部署が入っており、事業がこれまで以上に広がっていくと思います。

(2) その他「北九州市生涯学習推進計画《“学びの環”推進プラン》について」

資料「北九州市生涯学習推進計画《“学びの環”推進プラン》について」に基づき、事務局より説明。

(会長)

先程ご説明いただいたネットワークについてですけれども、市立図書館は拠点施設というか、どこに相当すると考えたらよいのですか。

(事務局)

このプランで拠点施設として例を挙げているのは市民センター、生涯学習センターとなっています。図書館は、学びの拠点として非常に重要なのですが、市民センター、生涯学習センターでは積極的に講座を実施するなど事業の機会を作っていくこととなります。

図書館については、施策4の具体的な取組みの「生涯学習関連施設の充実と連携」において、生涯学習総合センター、北九州ひとみらいプレイスがあって、次に図書館ということで、図書館サービスも市民ニーズの変化に応じて、図書館協議会の答申を踏まえながら充実をさせていきたいと考えています。

(3) 「これからの図書館サービスのあり方に関するアンケート報告書」

資料「これからの図書館サービスのあり方に関するアンケート報告書」に基づき、事務局より説明。

(会長)

それでは、アンケートの報告書についてご質問、ご意見等ありますか。

(委員)

ネットワーク環境(W i - F i 等)を充実したら、図書館でどんな点が便利になるのでしょうか。

(事務局)

現在、W i - F i については、八幡西図書館しか整備しておりません。他の館についてはインターネット端末という形で、パソコンを置いてインターネットを利用していたく形になっています。タブレットとかスマートフォンなど、情報機器を持ってきていただいて自分の情報機器でいろんな情報を入手することが出来ますので、端末がなくても利用者の方が好きな時間帯に必要な情報を気軽に見ることができると考えています。

(4) 「これからの図書館サービスのあり方について」具体的な施策の検討

(会長)

それでは、次は今日一番議論すべきところになりますが、議題2「これからの図書館サービスのあり方について」の具体的な施策の検討について、これまで検討小委員会で議論をしてきたわけですが、この具体的な施策をこの図書館協議会で提案するのは初めてですので、いろいろとご意見をいただきたいと思います。

具体的施策の検討を見ていただくと、5つの大項目があります。まず「図書館ネットワークの（連携）の構築」について説明をお願いしたいと思います。

① 「図書館ネットワーク（連携）の構築」について事務局より説明。

(委員)

私はよく福岡教育大学の図書館に行くのですが、書庫も大きいし、たくさん蔵書もあり、他大学の蔵書も検索できて、そこから福岡教育大学まで届けてもらうシステムがあるので、やはり便利ですね。大学はどれもたくさん蔵書があると思いますので、北九州市でも連携をすすめていただきたいと思います。

(会長)

大学の図書館も市民の方を受け入れているところはございますから、利用していただければよいですし、先程の資料にもありますように、相互貸借とかやっていますから、そのへんのネットワークをうまく利用していただければよいですね。

具体的施策の検討で見ると「大学図書館等との連携」、「大学との連携」は大学関係、「文化施設との連携」は文化施設。文化施設としては、他の地域の事例をご紹介いただいておりますけれども、この周りにも文化施設はありますよね。いろいろな企画展をされた時に図書館の方で同時にそれに関連する本を展示するとか、そういったことはされているようなのですが、まだ組織的にということではないところもありますから、そのへんをうまく連携してくれれば、相互に相乗効果が出てくるということもあるのかなと思います。

次に大項目の2番目、「地域や市民の課題を解決できる図書館」についてご説明をお願いします。

② 「地域や市民の課題を解決できる図書館」について事務局より説明。

(委員)

「地域の特性等を生かした図書館づくり」というところで、今回移転することになっている八幡図書館では、地元の児童文学者のみずかみかずよさんのコーナーを設けるということですが、私も九州国際大学にいる関係で、みずかみさんについては、近所の人から意外と色々な話をお伺いする機会があります。

その中で、みずかみさんのいろんな作品については、散逸する前に、できたら収集してもらえないだろうかという声を聞いたことがありますので、もしこういうコーナーを設けられる予定があるようでしたら、それにあわせて、できるだけみずかみさんの作品を拾い上げていただければ、特色あるものになるのではないかと思います。

(事務局)

文学館などとも連携しながら進めていきたいと思います。

(事務局)

先程、「これからの図書館サービスのあり方に関するアンケート」で説明させていただきましたが、「地域や市民の課題を解決できる図書館」でアンケートの中に、「地域や個人が抱える課題を解決するために、今後、市立図書館で図書コーナー設置や講演会を開催するとしたらどんな分野を希望しますか」という質問をしました。やはり健康・医療・福祉・介護・年金というところが要望としては多かったです。

その次には、仕事を進める上での能力アップ、就職・転職、ビジネスに関すること。

子育て・教育も当然高いですけど、先程言いました相続・遺言・終活についても要望がありました。

これについて、委員の皆様からご意見が何かありますでしょうか。

(会長)

図書館というのはこれまでただ本を置いておくだけでなく、より積極的に課題解決のひとつの施設として考えていく必要があるだろうと。それがやはりニーズに合っていないとただ単純にこういったものを企画してやればよいというものではないわけですね。

市民アンケートとしては、ある程度こちらが選択肢を設けていますので、その中では挙がってこなかった潜在的なニーズとかが何かあるかもしれないですね。委員の皆さまから、こういったことを図書館の方でやってはどうかというご意見をいただければと思いますが。

(委員)

市民センターとかでは、健康講座はとても人気があって、そういった講座がただ終わってしまう、何回かシリーズで終わってしまう。そのこととあわせて押し本のPR、

人が集まったときに、ただ楽しかった講座を受けたではなくて、その後にもまたプレゼンするというか、そういうふうにならなければ、来た方はそのままお帰りになってしまいます。

ちょっと帰りに図書館に寄ろうとか次の週に行ってみようとか、そういうことを提供できるようなPRがあれば、私も行ってみようとかいう気持ちになるので、そのつながりがあるとよいですね。講座をしたら終わり、ほとんどの方はそのまま終わってしまうので、そこでただ本を置くだけでなく、本をリストとかで紹介していくとか。そうすれば図書館をもっと身近になるのではないのでしょうか。

(事務局)

図書館の中で非常に先進的で力を入れているのが鳥取県立図書館なのですが、図書館の近くで講演会があるときに一緒に図書館も出向いて本を持って行って、そこで本を貸すということをやっています。

また、生涯学習推進計画のパブリックコメントで、市民センターのひまわり文庫で、市民センターの職員がもう少し本のご理解いただければよい、また本をもっと紹介してくれるような仕組みがあればという市民の意見がございました。

今、委員よりいただいた、講座の最後に紹介する本のリストを市民センターが作れるようなことをしたいというものがあれば、そのご支援というのはいただけるのでしょうか。

(委員)

可能だと思います。あとはセンターの館長や職員の研修に取り入れる、それも職員の研修も各区でそれぞれやっておりますので、年間の計画の中に本を読むということだけでなく、職員自身が働きかけるような研修をできると思います。

(会長)

先程、“学びの環”推進プランといいましたが、文字どおり、学習の場はいろんなところにあるわけですが、図書館がうまく環を作っていないといけないでしょうね。

(委員)

細かなことかもしれませんが、図書館の機能の中で情報センターの機能があると思います。例えば私の経験では、こんなこと知りたいと思い、パソコンで全部出したのです。パソコンで出せる方はいいのですが、出せない方については、必要な情報を資料として健康コーナーのところに置いておくとういのではないのでしょうか。

(事務局)

今はカウンターに来ていただいたら、本だけではなくインターネットの情報、それから図書館では有料データベースも無料でお使いいただけます。ただ、カウンターに来て

質問するという勇気とかきっかけがある方ならここまでいけるかもしれないけれども、今、委員がおっしゃったように、棚にそういう資料が並んでおいて自分で選べるということができればというのは、非常に今図書館として工夫がいるところだと確かに思います。

どのような形で資料が置いてあれば手にとりやすいとお考えでしょうか。

(委員)

若い人は、ネットとか否定されると嫌なんですよ。ネットとかWi-Fiとか一切しないで本を読みましようと言ってもやっぱりそうはいかないと思いますので、キーワードでこういう本が役に立ちますよと。ちょっとしたキーワードから本の中身に入っていけるようなものが資料としてあれば、本の世界に入っていけるのかなと気がしました。

(委員)

図書館の仕組みとして、たとえば介護のことを詳しく知りたいとあって、受付のカウンターに行って、どんな本がいいのでしょうかと言えば、良い本を選んでリストアップしてくださるわけですか。

(事務局)

リストアップまではないですが、まずカウンターの職員に聞いていただいて結構ですし、パソコンが多少使える方は横に検索用のパソコンがあります。キーワード検索もできますので、だいたいこんなような本があるという一覧が端末で出せますし、類似のテーマのものが並んでいるので比較的分かりやすいと思います。図書館職員に聞いていただくにより深くご紹介できます。

(委員)

多分、ほとんどの市民の方は、図書館でそこまでできるということを知らないと思いますので、もうちょっと市報等でPRしてみたいかがでしょうか。

(委員)

職員の方に迷惑がかかるのではないかと、こんなことで個人的に聞いてよいのだろうか、遠慮される方が中にはいらっしゃるんじゃないかと正直思います。

(委員)

図書館に行けば、レファレンスでいろんな力になってもらえる、そんないろんな機能が僕は好きですが、それって習慣づいてないと「何？」って思います。学校図書館が開放しているのかという開放していないじゃないですか。市民センターのひまわり文庫にも限りがあるし、子ども達が見るのかなとか思ったりするので、図書館が近い地域の人はよいですが、根付けない地域の人たちをどう拾うかというのが大事だと思います。

(会長)

なかなか難しい課題ですよ。新しく施設ができればいいのですが、そういうわけにもいかない。いろんな視点で考えなければならないところがあって、ひとつは「これからの図書館のサービスのあり方」というときに、全員が図書館に来なきゃいけないという発想でやってしまうと難しい。こういうニーズを図書館でやるという形をとらなきゃいけないという部分と若い人は図書館に来るよりネットでいろいろ調べた方がいいというのも当然出てくるわけで、図書館に行かなくても図書館を利用できるような仕組みをつくるとか、いろんな事を考えていかないといけないのかなと思います。

子供たちの場合は、小さいころから学校図書館を使いながら、図書館に行くメリットをうまく教育していかないと。それぞれの図書館が特色を持たないとわざわざそこに行かなくてもいいよねということになってしまいますね。

(会長)

他になにかございませんか。次に3つ目の「子どもの読書活動を推進する図書館」に行きたいと思います。

③ 「子どもの読書活動を推進する図書館」について事務局より説明。

(委員)

はじめての絵本事業というのはものすごくよいことだと思います。近年、読み聞かせをするときに母子、父親を含めて親子の絆が深まるという風な科学的データも出ていますので、あわせて配布のときになぜ、読み聞かせや絵本が大切なのかを言った方がよいのではないかと思います。購入してもらったり図書館で借りてもらったり、続くような形でしてもらいたいです。

(事務局)

絵本と一緒にリストを配布するとか、各館で読み聞かせもしていますから、そのところをもうちょっとPRして図書館に来ていただくとか、出生前からのお母さんたちに来てもらうような機会をつくっていきたいと思います。

(会長)

ブックスタートの実際の利用者の意見や声を載せるとよいのでは。

(事務局)

絵本をもらうことで読み聞かせにつながっているというご意見はいただいております。図書館の読み聞かせに参加したり、お子さんに絵本を読んであげたりとか、そういう機会につながっていると思います。

(会長)

他にはございませんでしょうか。ところで、子ども図書館は、どのあたりにできるのでしょうか。

(事務局)

子ども図書館は、この建物の、勝山分館と視聴覚センターを整備していこうと計画されています。

④ 「誰もが使いやすく、情報や人が交流する図書館」について事務局より説明。

(委員)

図書館のホームページの充実ですが、現在、発信されているのはどのようなものなののでしょうか。

(事務局)

子どものホームページを設けていますし、インターネット予約ができますので、利用者の方でホームページを見ていただいて、情報入手していただく形になっています。

(会長)

いろんな情報の提供の仕方をもうちょっと目を引くような工夫が必要なのかなと思います。行政のホームページのイメージが強くて、たしかに情報としては載っているけれども、もっと写真を載せるとか、行ってみたくなるような情報提供の工夫をしてほしいですね。

⑤ 「市民参画型図書館」について事務局より説明。

(会長)

いろんなボランティアの方が実際に活躍していただいておりますので、市民の方が参画するということが広がっていきだろーと思います。子ども司書養成講座とありましたように、実際に図書館と関わっていくところがうまく充実していけばよいと思います。

(委員)

ぜひお願いしたいのが、レファレンス担当職員の能力向上ですね。他の県の図書館に行っても、窓口で、貸出だけでなく、職員の方で専門的におられて親身になって探してくれるなど、充実している図書館ってすごいと思います。そのような職員の能力向上は必要だと思います。

(会長)

今はインターネットでいろいろ調べることができるので、図書館に行けば、職員がきちんと対応していただいて、インターネットではできないようなことができるという魅力がないと図書館に足を運ぼうとならないと思います。ですので、人材育成は非常に重要で、司書のレファレンスもそうですし、ボランティアの方といろいろな協力で人とふれあいながら図書が読めるというのがよいと思います。

(事務局)

「図書館の開館時間について」ですが、市民アンケートで、図書館の開館時間の延長について質問したのですが、委員のみなさんで何かご意見があればお聞きしたいのですが。

(委員)

学校についてですが、教育センターというのがあって通常17時までなのですが、木曜日に夜間開いています。一週間に一回でもいいので、そういう時間があるとよいと思います。

(委員)

延長したほうが市民としてはよいが、費用対効果、延長したら、職員の人件費など、どのくらいお金がかかって、それくらいの費用をかけるぐらいだったら新しい本を買った方がよいという話にもならないとも限りませんよね。市民は利用しない人でも、長い方がよいと答えると思いますが、無駄な投資をしていると、本当に必要なところにお金がいけない、例えば時間延長するかわりに新規購入費が少なくなってしまうは大変です。

(事務局)

アンケートの結果、利用したい人の割合は19.6%と、思ったより少ないと思いました。他の都市で延長している館があるのですが、利用者数も実際少ないところがあると聞いています。

(委員)

「延長したい時間帯をどのように利用するか」という質問に対して、その目的は、半数以上の方は返却とありますよね。

(会長)

返却ということであれば、図書館以外で返却できるような場所を作った方が、より利便性が高まる可能性があるわけですね。費用対効果の話が出てきましたが、本当に開けていることが意味あるのか考えていかないと、別のところでもっと充実するよう

なことを考えたほうがよいのかもしれませんがね。

(委員)

時間的に落ち着いて調べようとか、会社の帰りに寄ろうとかいうのがないので、つい本屋とか近くのアクセスがよいところになってしまうので、便利な返却場所があるとよいですね。

(5) その他

資料「北九州市公共施設マネジメント実行計画（成案）」、「八幡図書館」、「北九州市立図書館の評価」について、事務局より説明。

(会長)

何かご意見・ご質問はありますか。他になければ、本日の協議会はこれで終了いたします。